

サーバント・リーダーシップと体育会部活の成績の関係性

経営学科 4年 田村恵菜 伊藤誠悟ゼミ

●要旨

サーバント・リーダーシップは、リーダーである人は、まず相手に奉仕し、その後相手を導くものであるという理論から成り立っているリーダーシップである。現在でも多くの研究者によって、さまざまな理論が提唱されている。

本稿では、先行研究のサーバント・リーダーシップ尺度を図るアンケートをもとに、大学の体育会部活でサーバント・リーダーシップを用いている部活は成績が上がっているのではないかという仮説を立てた。体育会部活動へのアンケート結果から重回帰分析を行い、仮説を実証した。第1因子「受容と承認」と第2因子「リーダー像」と第3因子「部下最重視」の3因子を抽出することができた。そして、相関分析を行ったところ、第2因子「リーダー像」と第3因子「部下最重視」は組織成果に正の影響を及ぼしているということが分かった。しかし、第1因子の「承認と受容」は組織成果に有意な影響を及ぼしていないということが分かった。今回は仮説を立証することができなかった。

今後は、アンケート項目の追加や、対象母数を増やすことが課題に挙げられる。